

科目名	地域看護総論 I	必修/選択の別	必修
授業担当者	宮川 江里	評価方法	総合評価
履修年次	1年・後期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	15時間

<到達目標>

地域看護とは何かを理解し、対象者は地域で生活する全ての人々であること、対象者の健康問題を科学的な視点で捉え、多様な健康要求を把握するための基礎的な看護について理解する。

<授業内容>

- 第1回・第2回 なぜ、今「地域看護」か？ ①授業の概要 ②なぜ今地域看護が重要か
③自分の地域のイメージ「私の地域図」の作成とグループワーク 4H
- 第3回・第4回 自分の地域を歩き、リサーチをする 4H
- 第5回・第6回 演習内容を発表する 4H
- 第7回・第8回 地域概念 1.地域とは 2.地域と生活 3H

<授業方法>

- 第1回は、国民衛生の動向を用いた講義とグループワークを行う。
- 第2回は、各自でフィールドワークを行う。
- 第3回はフィールドワークの発表を行う。グループワークを行う。第4回は講義形式ですすめる。

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席、提出物、授業態度によって評価し、単位を認定する。

<必携図書>

臺由桂他「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」メディカ出版
「厚生指針増刊 国民衛生の動向2018/2019」一般財団法人厚生労働統計協会

<自己学習のポイント及び参考図書>

演習は、自分が住んでいる地域を実際に歩いて、その地域の特性を知る。
地域に住んでいる人と直接話をしたり、地域の特徴を写真に撮り、レポートにまとめて発表する。

<履修上の注意点>

国民衛生の動向、色鉛筆またはマーカーを持ってくる。

<学生に向けてのメッセージ>

地域看護は看護の原点です。その地域看護を学ぶ前に、まずは、しっかりと「地域」とは何か概念の理解が重要です。そのため、講義では地域とは何かを考え、次に、地域と生活、地域と看護へとのつながり明確にしていきます。地域とは？と自らの言葉で語れることを目指します。これからさらに求められ、期待される地域看護を共に学びましょう。

科目名	地域看護総論Ⅱ	必修/選択の別	必修
授業担当者	鈴木 美緒	評価方法	総合評価
履修年次	1年・後期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

1.地域保健医療福祉活動について学び、そこでの看護師の役割を理解することと、その現状と課題について学ぶ

<授業内容>

第1回 地域看護の理念 地域看護を促す諸理念 地域保険医療福祉活動の理解 予防の概念 2H
 第2回 自分が住んでいる地域の「広報」の整理から地域 保健医療福祉活動の特徴を抜き出す 2H
 第3回～第5回 「広報」から地域で実際に行われている保健医療福祉活動の背景を個人またはグループで調べる 6H
 第6回・第7回 グループワークの発表 4H
 第8回・第9回 地域看護と憲法、関連法規 地域看護に関連する法律・制度、関係機関と職種 4H
 第10回・第11回 地域の医療活動 地域で行われている実際の医療活動の内容を知る 4H
 第12回・第13回 地域の福祉活動 社会福祉協議会の活動 4H
 第14回・第15回 地域保健医療福祉活動のまとめ 憲法と基本的人権と地域看護 4H

<授業方法>

第1.7.8回講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。
 第2.3回はグループワークを行う
 第7回特別講義として、社会福祉協議会の方の講義を受ける。

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席、提出物、授業態度によって評価し、単位を認定します。

<必携図書>

臺由桂他「ナースングラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」メディカ出版
 平野かよ子他「ナースングラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生」メディカ出版

<自己学習のポイント及び参考図書>

自分の地域で実際に行われている保健医療福祉活動を知る。
 教科書「地域療養を支えるケア」を読む。

<履修上の注意点>

自分の住む地域で配布される「広報」2か月分を夏季休暇中に準備する。

<学生に向けてのメッセージ>

地域の保健・医療・福祉活動について知り、地域で生活している療養者の生活を見る視点を磨きましょう。

科目名	地域看護活動論 I	必修/選択の別	必修
授業担当者	鈴木 美緒	評価方法	レポート評価
履修年次	2年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

1. 地域看護の活動が公衆衛生看護、在宅看護、産業看護、学校保健の4つの領域で行なわれていることを理解し、それぞれの看護の特徴と連携について学ぶことができる
2. 各領域の対象者とその健康問題の実際を知り、その背景について考察し、地域看護に必要な 基本的な知識について学ぶ

<授業内容>

- 第1回・第2回 地域看護の4つの領域の位置づけとその対象 学校看護①養護教諭の仕事 ②学校保健の仕組み・学校看護 ③学校保健健・看護の対象と健康課題 ④養護教諭について 4H
- 第3回・第4回 公衆衛生看護 ①公衆衛生とは ②公衆衛生看護とは ③ビデオ鑑賞・公衆衛生の歴史 ④活動の場 3H
産業看護 ①産業保健とは ②産業看護の特徴 ③産業看護職の活動 1H
- 第5回・第6回 在宅看護1 ①在宅看護の概念 ②在宅看護の対象者 ③在宅療養の特徴 ④ビデオ鑑賞・グループワーク
- 第7回・第8回 在宅看護2 ①グループワーク・ビデオ鑑賞 ②グループディスカッションと発表 ③介護保険制度について
- 第9回・第10回 在宅看護の対象者と家族 ①在宅看護と家族 ②DVD鑑賞 ③対象者である家族の捉え方 4H
- 第11回 グループ演習と調査・フィールドワーク① 2H
- 第12回・第13回 グループレポートの発表 4H
- 第14回・第15回 まとめの講義 評価レポートの作成 4H

<授業方法>

- 第1回～第5回、第9回・第10回講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。
第6回・第7回はグループワークを行う。第8回は教室グループ毎発表する。
第12回・第13回は自分のPCを使用する人は持参する。

<評価方法の詳細>

評価はレポート評価である。授業時間2/3以上の出席をもってレポート評価を受ける資格が得られる。
レポート評価は演習40% レポート発表会の感想20% 評価レポート40% 合計100点で評価する。

<必携図書>

臺由桂他「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」メディカ出版
平野かよ子他「ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生」メディカ出版
「厚生指針増刊 国民衛生の動向2018/2019」一般財団法人厚生労働統計協会

<自己学習のポイント及び参考図書>

講義では地域看護活動の4つの領域の概要をおさえ、演習は4つの領域の中から自分が最も関心がある領域の一つを選択し、その領域の社会問題で自分が調べてみたいことをテーマに挙げます。それについて実態を調べ、グループで演習していきます。学習の方法は、調べてみたいことの実態を関係者に聞く、自分の目で見ると、新聞や雑誌などの記事で調査をします。

<履修上の注意点>

最終レポートの作成は参考文献を使用します。授業中に提示しますので、各自興味があるものを読書して置いて下さい。

<学生に向けてのメッセージ>

地域や社会が多様化している現代、社会に目が向けられ、様々な健康問題を抱えた生活者が地域にいることを理解して欲しいです。対象者を生活者として見る視点を持ち、社会的痛みが理解でき、そこに寄り添える看護師へ成長できるように一緒に学習をしていきましょう。

科目名	地域看護活動論Ⅱ	必修/選択の別	必修
授業担当者	宮川 江里	評価方法	筆記試験
履修年次	2年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

1. 健康障害を持ちながら地域で生活する対象者や、在宅における終末期看護について理解する。
2. 対象者の状態に応じた看護の実際と、地域保健医療福祉機関の連携、他職種との協働について、その他の専門領域の知識・技術を応用、統合しながら学ぶ。

<授業内容>

- 第1回・第2回 今年度の講義目的と進め方 地域保健医療福祉活動の中の診療所の医療活動と看護活動 4H
 第3回 地域看護学実習のまとめと発表 2H
 第4回 訪問看護ステーションの概要 2H
 第5回 継続看護と保健医療福祉の連携 2H
 第6回 在宅看護における基本技術 2H
 第7回 在宅での医療技術 2H
 第8回・第9回 在宅療養者の症状・病態別の看護 4H
 第10回 在宅における終末期看護 2H
 第11回 在宅療養者に対するアセスメント 2H
 第12回・第13回 ロールプレイングの発表① 4H
 第14回 演習のまとめ 2H
 第15回 訪問看護の活動の実際 地域看護学実習Ⅱのオリエンテーション 2H

<授業方法>

- 第1～8回講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。
 第9回はグループワークを行う。第10回は在宅演習室でグループ毎発表する。
 第12回は実習先の訪問看護ステーションの看護師の講義となる。パワーポイントを使用する。

<評価方法の詳細>

- 授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。
 筆記試験は前期終講試験で100点で実施する。

<必携図書>

臺由桂他「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」メディカ出版

<自己学習のポイント及び参考図書>

保健所と保健センターの違いや介護保険、訪問看護ステーションの概要等の法律や制度は、一度で理解することは難しいため、講義で何度も触れますので、そのつど教科書を用いて確認できると良いでしょう。

<履修上の注意点>

地域看護学実習ⅠⅡの実習と講義の連動を意識して両者を進めています。講義では実習の経験を思い出し、実習では机上の学びを想起することを意識的に行い、経験を知識に移行していきましょう。

<学生に向けてのメッセージ>

在宅看護は、対象者のありのままの生活を受け止め、生活の場で看護を提供します。看護を提供する場が在宅だからこそ、その方の人生に触れる、携われるため、看護師としても人としても豊かになります。このような自己の成長を大きく促す在宅看護と地域看護の素晴らしさ奥深さを講義と実習で学びとってほしいと思います。

科目名	看護管理	必修/選択の別	必修
授業担当者	小泉 京子、根津 あき子	評価方法	総合評価
履修年次	3年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	20時間

<到達目標>

1. 看護管理の目的、機能、看護管理者の役割を学ぶ。
2. チーム医療や多職種との連携・協働における看護師としてメンバーシップ、リーダーシップを学ぶ。

<授業内容>

第1回 看護とマネジメント 2H 講師:小泉京子
 第2回 看護ケアのマネジメント チーム医療 2H 講師:小泉京子
 第3回・第4回 看護ケアのマネジメント 日常業務のマネジメント 4H 講師:小泉京子
 第5回 ベッドサイドの看護管理 2H 講師:小泉京子
 第6回 マネジメントに必要な知識と技術 2H 講師:根津あき子
 第7回・第8回 看護を取り巻く諸制度 4H 講師:小泉京子
 第9回・第10回 統合実習Ⅱまとめ 4H

<授業方法>

第1～5回講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。場所は教室を使用。
 第6回は統合実習Ⅱで得られた看護管理の学びを実習グループでの演習を通して整理する。場所は講堂を使用

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席、提出物、授業態度によって評価し、単位を認定します。。

<必携図書>

上泉和子他「系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①」医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

<履修上の注意点>

統合実習前後に授業が組まれています。前の授業で学んだ知識は統合実習に活かし、統合実習後の授業は実習で得た経験や知識から学びを深化させます。実習とつながっているところを意識して授業に臨んで下さい。

<学生に向けてのメッセージ>

看護管理というと「自分とは関係のないこと」と感じる学生も多いと思いますが、現代医療においては、経営は全職員が関わるものとしてとらえられています。学習を通して看護管理が身近な課題になることを期待します。

科目名	国際看護学・災害看護学	必修/選択の別	必修
授業担当者	宮本 和子、看護師	評価方法	総合評価
履修年次	2年・後期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	15時間

<到達目標>

<国際看護学>

看護者として医療・看護の国際的な動向を視野に入れ、国を超えたグローバルな視点から健康増進に関与する看護を学ぶ。1)国際的な健康問題について知る 2)看護の国際協力とそのしくみを知る 3)国際看護活動の実際を知る

<災害看護学>

災害時直後から支援できる看護活動における基礎的な知識を学ぶ。

<授業内容>

国際看護 4H 講師:宮本和子

- 第1回・第2回 1. 健康と保健医療の世界的課題
2. 国際協力のしくみ
3. 国際看護活動の実際

災害看護 11H 講師:看護師

- 第3回・第4回 1. 災害看護の基礎知識 4H
2. 災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護
- 第5回・第6回 1. 災害救護演習(学内) 心肺蘇生法(BLS)、AEDの取り扱い、総合訓練 3H
- 第7回・第8回 1. トリアージ訓練(病院の訓練に参加) 4H

<授業方法>

第1回、第2回はパワーポイントを使用し講義形式で行います。

第3回の演習は講堂で指導のもと実際に模型人形を使い実施します。服装は学校ジャージ。

第4回のトリアージ訓練は、甲府共立病院で行われる職員対象の訓練に患者役として参加します。

<評価方法>

授業時間の2/3以上の出席、提出物、授業態度によって評価し、単位を認定します。

<必携図書>

浦田喜久子他 系統別看護講座 統合分野 災害看護学・国際看護学,看護の統合と実践③,医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

保健に関して世界で何が起きているのか関心を持ち、新聞、メディアから意識的に情報収集をしておく。

東日本大震災をはじめとし、近年日本各地で起きている様々な災害について学習を行い、災害に対し興味関心を高く持つとともに、災害時の看護師の役割を自分なりに考えておく。

<履修上の注意点>

第3回の学内演習では救急蘇生法など行うため、ジャージを着用して下さい。

第4回のトリアージ訓練は病院に行って特殊なメイクをしてもらい、患者や家族の体験をします。1回限りの訓練ですので体調を整え参加できるようにしましょう。

<学生に向けてのメッセージ>

世界情勢の変化や国内外での災害の多発など、国際看護・災害看護の役割はさらに重要なものとなっています。

国内外の情勢にも高い関心を持ちながら、多方面で活躍できる看護師を目指し学んでほしいと願っています。

科目名	医療安全	必修/選択の別	必修
授業担当者	宮川 江里	評価方法	筆記試験
履修年次	1年・後期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	15時間

<到達目標>

1. 患者や医療従事者自身の安全を守るため、医療事故防止と院内感染防止のための看護技術について学ぶ。
2. 医療事故防止に関する知識を学び、専門職業人として患者の安全を守るための意識と態度を養う。
3. 院内感染予防に関する基礎的な知識の獲得と感染予防に関する技術を確実に獲得する。

<授業内容>

- 第1回 医療安全と看護の責務 ①看護師および看護業務の法的な規定
医療安全施策 ①検証:都立広尾病院の事故はなぜ起こったか ②医療安全に関する国の取り組み
③医療事故などの定義・分類 2H
- 第2回 医療事故のメカニズムと防止対策 2H
- 第3回 医療機関における安全対策 ①医療機関における組織としての取り組み ②事故の原因の分析と対策の検討
④看護におけるリスクマネジメントの実際 2H 病院看護師
- 第4回 看護師における安全対策 ①看護業務と事故発生要因 ②医療事故の種類と安全対策 2H
看護学生の実習と安全 2H
- 第5回 医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 ①感染の危険を伴う病原体への曝露 ②院内感染 2H
- 第6回・第7回 やってみようKYT 3H

<授業方法>

- 第1.2.4.5回講師作成のパワーポイントと教科書を用いて講義形式ですすめる。
第3回は臨床の看護師の講義となる。
第6回はグループで演習を行い、発表する。

<評価方法の詳細>

- 授業時間2/3以上の出席をもって筆記試験の受験資格が得られる。
筆記試験は前期終講試験で100点で実施する。

<必携図書>

松下由美子他「ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全」メディカ出版

<自己学習のポイント及び参考図書>

医療事故に関する新聞、メディアにおいて、日常から関心を持ち、なぜ、医療事故が起こったのか自分の考えをまとめておく。

<履修上の注意点>

必携図書の内容は、講義では網羅できません。特に講義中に提示した箇所は各自で熟読する。

<学生に向けてのメッセージ>

医療安全は、これまでの歴史の中で創り上げられてきた分野や今もなお進化しています。歴史やメカニズムから医療安全を理解し、これからさらに安全な医療や看護が対象者に提供できるよう、知識や視点を獲得しましょう。

科目名	看護研究	必修/選択の別	必修
授業担当者	押領司 民	評価方法	総合評価
履修年次	2年・後期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	30時間

<到達目標>

1. 看護研究に関する基礎知識を学び、研究的視点を持つことができる。
2. 日常の看護実践を科学的、理論的に分析するための基礎的な手法を知る。
3. プレゼンテーションの方法を知り、3年次のケースレポートの発表に活かすことができる。

<授業内容>

第1回・2回 看護研究の定義と目的 研究課題に関するブレインストーミング 研究計画書の書き方 4H
 第3回・4回 ケーススタディの査読 自分の文章の査読 学会の質問内容の確認 4H
 第5回～8回 山梨看護学会 8H
 第9回～14回 卒業研究発表会 12H
 第15回 プレゼンテーションについて 2H

<授業方法>

第1～4回、第15回は講師作成のパワーポイントと教科書を用いて、講義形式とグループワークですすめる。
 第5～8回の山梨看護学会は、山梨県漢語協会主催の学会に参加をする。
 第9～14回の卒業研究発表会は、3年生の卒業研究発表会に参加する。

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席、提出物、授業態度によって評価し、単位を認定する。

<必携図書>

坂下玲子他「系統看護学講座 別巻 看護研究」医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

<履修上の注意点>

第5～8回の山梨看護学会は、土曜日に開催される。1日参加となり、欠席時は代替が必要となるため、注意すること。
 第9～14回の卒業研究発表会は、2日間に分けて開催される。欠席時は代替が必要となるため、注意すること。

<学生に向けてのメッセージ>

一つの研究で明らかになることはわずかかもしれませんが、しかし、研究を積み重ねることによって、世界中の多くの患者さんの苦悩を軽減することができます。また、研究に関するライフテーマを持つことは、看護師としての人生をより有意義にするでしょう。

科目名	看護技術演習	必修/選択の別	必修
授業担当者	宮川 江里	評価方法	総合評価
履修年次	3年・前期	授業形式	講義
単位数	1単位	時間数	15時間

<到達目標>

1. 卒業までに履修した基礎看護技術の総合的な評価を行なう。
2. 事例等に対して、必要な看護技術を適用し、連動させた看護技術の実施を評価する。

<授業内容>

- 第1回 複数受け持ち患者の情報収集 ①複数の患者(ペーパーペイシエント)の情報を整理する 2H
 第2回 受け持ち患者の計画立案 2H
 第3回・第4回 技術演習 ①計画した援助を複数の受け持ち患者に実践する 4H
 第5回・第6回 ②演習内容をグループで振り返る 4H
 第7回・第8回 演習内容の振り返り ①基礎看護技術について考え、その場に応じた適切な対応や優先順位について考え
 ②自己の看護の知識・技術を振り返り、看護の課題を明確にする。 3H

<授業方法>

- 第1,2回は、個人とグループで演習形式ですすめる。
 第3回は、実習室で、模擬患者に対して計画を実践する。
 第4回は、個人とグループで振り返りを行う。グループの振り返りの際は、ファシリテーターとして教員が入る。

<評価方法の詳細>

授業時間の2/3以上の出席、提出物、授業態度によって評価し、単位を認定します。

<必携図書>

茂野香おる他「系統看護学講座 専門分野 I 看護学概論 基礎看護学①」医学書院

<自己学習のポイント及び参考図書>

統合実習Ⅱの学びを振り返り、複数受け持ち時の看護師の動きをまとめておく。

<履修上の注意点>

演習の実践も重要ですが、その後の振り返りが、今後のみなさんの計画立案や援助方法、優先順位決定方法の充実を促進します。積極的に意見を出し合ひましょう。

<学生に向けてのメッセージ>

本講義を聴講した半年後には、実際に臨床では複数の対象を受け持ちます。その際、何を大事に優先順位を決めていくか、対象の安全を守るとはどのようなことか等、複数の対象を受け持つからこそ見えてくる課題もあります。看護師として求められる知識や技術を実感し自己研鑽につなげましょう。